

## 日本災害食学会 2018 年学術大会に参加しました(2018/8/19)

テーマ：災害食，BCP

場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

8月19日(日)～20日(月)の2日間、当研究所を会場にして、日本災害食学会・主催、東北大学災害科学国際研究所の共催にて「日本災害食学会2018年学術大会」が開催されました。同学会は、その名の通り、災害時の様々な状況に対応した理想的な災害食の開発や保存安定性などの課題の解決に向けて、多方面での行政・研究機関や民間企業の研究・連携を促進し、医療・教育等幅広い分野での情報交換、知識の集積の場を作り、災害時の食に関して研究者の育成と社会への情報提供を目指す学会です。

当研究所からは、丸谷浩明教授（人間・社会連携部門）が「東日本大震災とBCPと食」という題目で基調講演を行いました。丸谷浩明教授は、東日本大震災で発生した東北大学の被害や、食を中心とする学内対応、災害食を含めBCPにおいて重要になる要素の提言について講演しました。また、佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）は交流会においてウェルカムスピーチを行うとともに、以下の共著発表1件を行いました。

同学会では、これまで東京と新潟での開催を交互に行ってきたおり、それ以外の場所での初開催が仙台となり、当研究所が会場となりました。地方開催としては、異例の100名を超える参加となり、会場満員で大変盛会となりました。

### 【基調講演】

- 丸谷浩明：東日本大震災とBCPと食

### 【研究発表】

- 佐藤美嶺，佐藤翔輔：小学生が「作り手」になることを目指した災害食ワークショップの実践と検証

下線は研究所構成員。



丸谷浩明教授（基調講演）



会場の様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）